

# オーム社開発部における T<sub>E</sub>X の利用

森田尚

October 21, 2011

# オーム社開発部における T<sub>E</sub>X の利用

森田尚・鹿野桂一郎・高尾智絵  
株式会社オーム社 開発部  
<http://www.ohmsha.co.jp>

# ゴール

- 読者に良い本を届ける
- かかわる人たちに最大限に力を発揮してもらう

- 人間は人間にしかできない仕事に注力する
- 本の内容を評価することは人間にしかできない
- それ以外は機械に肩代わりしてもらえることも多い
  - 組版をはじめ、赤字のマーージやタスク管理など

# ワークフロー

- ① 原稿を編集してリポジトリに送信する
- ② 最新のPDFがサーバ上に自動生成される
- ③ それを読んでトラッカーやMLでフィードバックする
- ④ (これを繰り返して完成度を高めていく)

# ツール

- 原稿：LaTeX、XML など
- バージョン管理システム：Subversion、Git など
- 問題追跡システム：Trac など
- テスト：人の目によるレビュー + JustRight!などを援用
- バッチ組版システム：LaTeX + プリプロセッサ
- 自動ビルドサーバ：Jenkins
- その他：メーリングリストやファイル共有など

- 構造化されたテキスト原稿
- 機械処理できる
- 主に XML や LaTeX を利用

# バージョン管理システム

- 編集結果を自動的にマージしてくれる
- 分散・非同期での協働がしやすくなる
- 主に Subversion や Git を利用

# 問題追跡システム (ITS)

- 課題を記録しておく
- フロー情報をストック情報に
- 主に Trac を利用

# テスト

- 主に人の目によるレビュー
- JustRight!などを援用

# バッチ組版システム

- LaTeX ベース
- XML 等はフォーマット変換ツールで LaTeX へ変換
  - xml2tex.scm (鹿野)
  - IdeoType (森田)

# 自動ビルドサーバ (CI)

- PDF を生成してファイル共有にアップロードしてくれる
- 安定した環境でクリーンなビルドが得られる
- 主に Jenkins を利用

# TeX環境：概要

- ディストリビューション：TeX Live 2007、2009
- クラスやパッケージ：jsbook、otf、geometry など
- フォント：主にヒラギノ
- OS：Debian GNU/Linux

# TeX環境：独自に作ったもの

- jsbook.cls 12.5Q パッチ (鹿野)
- courier-extra (幅が狭い等幅フォント) (森田)
- multipagebox.sty (囲み記事) (森田)

# 長所と課題

- 著者には好評
- 本の内容に集中できる
- ebook への展開がしやすい
  
- 技術担当者に負荷が集中しやすい
  - スクリプトの調整
  - インフラの運用管理

# これまでとこれから

- 2002：バージョン管理システムを導入
- 2005：LaTeXを導入
- 2006：フォーマット変換ツールを導入
- 2007：CIを導入
- 2010：Ohmsha eStore( $\beta$ )をオープン  
(<http://estore.ohmsha.co.jp>)
- 今後：さらなる改善